



2018年6月
第678号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



「厳肅なのに大らかな教会」

平塚教会牧師 北川 一明

反対に、皆が預言しているところへ、信者でない人か、教会に来て間もない人が入って来たら、彼は皆から非を悟らされ、皆から罪を指摘され、心の内に隠していたことが明るみに出され、結局、ひれ伏して神を礼拝し、「まことに、神はあなたがたの内におられます」と皆の前で言い表すことになるでしょう。

(コリントの書Ⅰ第14章24〜25節)

大らかな、人を慰める教会でありたいと願っています。そのため、ぜひ実現したいことがあります。いっけん矛盾するようですが…主日礼拝を、もつともつと緊張感のある、厳肅なものにしたいのです。

礼拝は、心の洗われるような清々しい思いになるべきものです。礼拝を整えるのは説教者だけではありません。司式者、奏楽者、諸奉仕者と、全礼拝会衆です。礼拝で心が洗われたとしましょう。その日の礼拝会衆

は、他の人に対して優しく大らかなるに決まっています。

清々しさのためには、礼拝は厳肅でなければなりません。礼拝を厳肅にするには、形を整えることは大切です。でも、もちろん形だけでは整いません。

「礼拝開始十分前、遅くともせめて五分前には着座し気持ちを整えましょう」。そんな取り決めをしている教会は多いようです。確かにそうです。礼拝に遅刻しては、良い礼拝が捧げられるはずがありません。

ただ…私たちはこのせわしない世に住んでいます。礼拝前の十分間で気持ちが整うでしょうか。十分では不十分でしょう。

だからといって「十分前」を二十分前、三十分前に早めるのは、的外れの努力のように思えます。「〇〇分前」が御作法としての約束事では意味がありません。

こんな経験をしたことがあります。

都心の大きな教会でした。外国で活躍する芸能人も時々礼拝に現われます。そのため礼拝中の会衆席が、少し浮き足立つこともあります。

目次

「厳肅なのに大らかな教会」

北川一明牧師…1

大人とこどもの合同礼拝

…4

各部探訪

平和を学ぶ会(2)

中村 寛志…3

編集後祈

…4

ふらっと立ち寄った芸能人は、礼拝のしきたりを知りません。そこで芸能人が来ると、熱心な信徒さんが気負い立ちます。礼拝の厳粛さを守るためです。

ある芸能人が、何度か続けて礼拝に来ていました。後に大病をして芸能活動が出来なくなった人ですが、礼拝に来るようになったのは病気が見つかる前でした。キリスト教の必要な芸能人を、神がお導きになったのでしょうか。

教会員は、もちろん特別扱いはしません。その人も、普通に礼拝を守っていました。私がかたままその教会の礼拝に出席した時です。そのかたは家族を連れて礼拝に出ました。子どもはまだ学齢前でした。

「厳粛さを守りたい」信徒さんがすかさずそばに陣取りました。そして子どもがほんの少し落ち着きをなくすと、待ち構えていたように注意しました。一回の礼拝で複数回、そういうことがありました。

私は、落ち着きをなくす子どもよりも、その信徒さんに気持ち搔き乱されました。同じ親子連れでも、有名人でなければあそこま

で厳しくはしなかったように感じたのです。自分が「世の名声には屈せず礼拝の厳粛さを守る立派な信徒」であろうとして、そのため

に芸能人家族が犠牲になったように見えませんでした。

その日から芸能人一家は来なくなつたようです。その信徒さんは、「これらの小さな者の一人をつまづかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、深い海に沈められる方がましである（マタイ18・6）」とイエスさまに叱られるかもしれません。

私は「他人を注意することに熱心で、自身が神を礼拝することを忘れて」と、心の中でその信徒さんを審きました。

かく言う私も、その日の礼拝態度はさんざんでした。その信徒さんを審くことに熱心で、全然気持ち神に向いていませんでした。（そのことにはずつと後で気付きました。）

教会学校の教師をしていて、または礼拝後の会食の準備のために：など、礼拝前に奉仕をしている人たちがあります。そうした人たちが開始一分前に礼拝堂に駆け込んだとしたらどうでしょうか。

神に奉仕していることで、二十分前から座っているよりも、かえって気持ちが神に向かつて整っていることもあり得ます。奉仕が、深い祈りに支えられている場合です。

約束事や取り決めは必要です。ただ約束事

で礼拝を整えようとしても限界があります。厳しくしたために礼拝が形骸化してしまつた教会は、たくさんあります。そんな教会の礼拝は、「窮屈」であつて「厳粛」ではありません。

礼拝開始前に呼気のアルコール・チェックをする教会は窮屈です。チェックしないのが当たり前です。

酔っ払いが礼拝に来た。最初は真面目に礼拝する気持ちはなかった。ところが会衆の礼拝態度に自ら「皆から罪を指摘され」た思ひになった。自身を卑しめていたことに気付いてひれ伏し「まことに、神はあなたがたの内におられます」と、思わず信仰を告白してしまつた。そんな礼拝を捧げられたら良いですね。

私たちの信仰を整えるのは礼拝です。その礼拝を整えるのは、最終的には私たちの信仰です。堂々巡りです。ですから好循環を作りたいのです。

生けるまことの神が居られることを証できるような礼拝を目指しましょう。



各部探訪
平和を学ぶ会(2)

中村 寛志

今までに、平和を学ぶ会で取り上げたテキストには、絵本から哲学書まであります。

「せんそうのつくり方」(リボンプロジェクト)、「永遠平和のために」(カント)、他に例を挙げれば「人が神にならない為に」(荒井献)、「嵐の中の教会」(ブルーダー)、「心と戦争」(高橋哲也)、「嵐の中の牧師たち」(辻宣道)、「荒野の40年」(ワイツゼッカー)、「日本ホーリネス教団 戦争責任告白」、そして、現在使用中の「日本基督教団戦争責任告白から五十年」まで様々です。

特に、「嵐の中の教会」は、これ以前にも学んだ機会があり、二度目でした。ナチズムの吹き荒れる中で、本当の礼拝とは何か、国家の力が教会を圧倒し始めている時に、揺ぎ無いところに立つ教会とはどの様な教会か、教会のあり方は、どのようであればよいのかということ、もう一度学びました。

今年の役員会でも学ぶ機会があると聞きました。グルント牧師と役員会のあり方に学びつつ、平塚教会でも良き糧と示唆が与えられると思います。礼拝の大切さ、教会の寄って立つところの確信を得るよいテキストです。

1979年、改訂前の「教会員ハンドブック」が発行され、旧約聖書からもう一度平和

を学ぼうという岡本牧師からの提案があり、「平和を学ぶ会」がスタートしました。

イスラエルの歴史から、北王国と南王国が対立する中で、如何に和合するかという方向を探る中から、唯一なる神の存在に改めて気付かされて行くことを学びました。一旦、この会も閉じられようかという時に、昭和が終わりそうだという出来事があり、これからの教会はどうなるのだろうか、天皇制の基に教会の先行きが不安だという声も、教会の中から、幼稚園の保護者から出されて、もう一度、「平和を学ぶ会」を復活して、天皇制を含めた政治と教会の関係を学び直そうということになり、今日に至っています。

「さん木かい」でもローマ帝国についての学びが始まり、まさに戦争に関わる歴史の流れが、一大帝国を作り出し、繁栄、発展、拡大し、一見平和な安定した様に見える帝国でしたが、同じ時代にイエスの生涯が重なり、最終的にキリスト教が国教になったという流れがあります。歴史の流れに、神様が関わっておられるということに、再び気付かされました。

「平和」の反対語は、一般には「戦争」ですが、実際に戦車の動きや銃の発射など、目に見える戦いは無くても、互いの疑いの中で、見えない戦争しているのが人間の世界です。

武器を作り、相手を完全に抹殺することを考えるのが人間であり、他の動物はそこまで考えていないし、考えることもしません。

旧約聖書の時代にも、沢山の戦争が記録されている中で、戦いを拒否したヤコブ等もいました。しかし、新約聖書の中にも戦いという言葉はありますが、具体的に人間同士の戦争ではなく、ほとんどが心の闘い(戦いではない)信仰の闘い、悪の霊に対する闘いという言葉が多いように思います。

イエスの言動が平和の模範であり、キリストによる贖罪によって、まさに平和がもたらされると信じて、そのことを教会の内外に体や態度、語ることで現すことが求められています。

「平和を学ぶこと」は、平和であるように願う心から出発します。

「平和を学ぶ」ということは、具体的に戦われないことを学び、そのためには人間の知恵の基本に何が必要なのか、何から出発しなければならぬのかを学ぶことでしよう。戦争が文化を作り出した、戦争が起きないと経済活動が回らないとよく言われますが、それだけで戦争が始まってよいのでしょうか？今持っている武器を鋤や鍬に打ち変えることを実行しなければなりません。武器で儲けようとする国や商人がいる限り戦争は終わりません。武器を作らない、核兵器を作らない、この決断と実行が本当に戦いを止める事の出る具体的な方法です。決断と実行の基に何を据えるかが問われます。

日本も武器を売ろうと考えています。どこに売るのが？ いくらで売るのが？

北朝鮮がらみで日本はアメリカから武器を買われました。何時、使うの？ 何時まで持つの？

イエスが誕生した時、天使たちが「**地には平和**」と讃えました。山上の説教では、「**平和を実現する人々は幸いである**。その人たちは神の子と呼ばれる」とあります。

復活のイエスが、弟子たちに現われて、最初に語られたことは、「**あなたがたに平和があるように**」でした。イエスの生涯は、**平和の実現**のためでした。聖書から学んだ平和のあり方を、今この世界に実現させ、身近なところから**平和**を創り出しましょう。

**《剣をさやに納めなさい。
剣を取る者は皆、剣で滅びる。》**

新約聖書 マタイによる福音書 26:52

私たちは戦争に反対です。

メソジスト社会活動連盟ニューヨーク支部 タカ・イシイ牧師の記者会見で、
「ブッシュ大統領、チェイニー副大統領もいる合同メソジスト教会では、教派の戦争に対する立場は極めて明確で、次のように社会指針に明言しています。
『我々は、キリストの教え、および実践は、戦争と相容れないと信じる。よって我々は、外交の一般的手段としての戦争を拒否し、すべての国民の倫理的義務は、自国と他国、もしくは他国同士の間で起き得るいかなる戦争をも、平和的手段をもって解決すべきであることを力説するのである。』と。
(キリスト新聞 2003年2月15日付け)

私たちは戦争に反対です。

過去の戦争体験から、私たちは日本国憲法で、
“**戦争や武力を、国際紛争の解決の手段とはしない。**”と宣言しました。
今こそ、この原点を、もう一度、皆さんの手のなかで温めてください。

日本キリスト教団神奈川教区西湘南地区ヤサシ問題連絡会(総務責任:小津大樹)
日本キリスト教団平塚教会平和を学ぶ会(総務責任:金子昭、中村寛)

**あなたは戦争に行きますか？
子供たちを戦争に送りますか？**

2008.4

大人とこどもの合同礼拝

「本日は神様の恵みにより、教会学校の子ども達、二葉幼稚園の子ども達、保護者の皆様と合同の礼拝となりました。神様のみ言葉を聞いて、心をきれいにして優しい心でこの一週間を過ごすことができますように。大人達みんなで子ども達を守って行く事ができますように・・・」と、司式の山田美千代姉の祈りにありましたように、大人とこどもの合同礼拝が6月10日に行われました。

礼拝開始十分前には、保護者の方と信徒の方が着席し、教会学校の子ども達と二葉幼稚園児達を迎えました(保護者の方と子ども達は約50名ほど)。

讚美歌は、幼稚園や教会学校でよく歌われる「うれしい朝よ」や「どんなに小さな小鳥でも」が賛美されました。私たち大人も元気のよい子ども達の歌声に引きずられ、いつもより声を出しているように思えました。

礼拝を共にした教会員の方が、「子ども達は、長い時間、とても静かに礼拝を守っていましたね。幼稚園の子にとっては、難しい話でしょうに感心しました。」「今は分らなくてもいいのよ。礼拝とはこういうものだど体験する事だけでね。」と感想を述べておられました。

礼拝後は、茶菓系の皆様が用意していただきましたお茶とお菓子・果物をいただきながらの団欒の一時です。皆様和気あいあい。

の時の様子は、次の写真でどうぞ！



編集後祈

先月号までは、巻頭言とテーマの両方を掲載してました。

テーマが書いてあるので、巻頭言の文言は削除してよいのでは」との意見があり、役員会で検討の結果、今月号より巻頭言を削除し、テーマのみとすることにしました。ご理解のほどを。

編集子